

📷 いわき駅前フェスティバル

📍 いわき駅周辺

📅 4/12(土)



＼ いわき駅前周辺で3つのイベントが同時開催！ ／

「並木の杜シティ街開き」、県内ではじめて認定された「ほこみちオープニングセレモニー」、「駅前サンシャインマルシェ」が同時開催され、さまざまなステージイベントや催し物のほか、飲食店や雑貨店などが多数出店し、多くの来場者で賑わっていました。

いわき駅前周辺のハード整備も着々と進んでおり、魅力的な賑わいづくりに向け、ソフト事業の支援にも注力してまいります。



写真が語る「いわき」の歴史



「八景」って何？

「八景」とは、ある地域において8か所の優れた風景を4文字程度の漢字で言い表したものです。10世紀の中国において編み出された「瀟湘八景」に始まるとされ、風景8か所を地域の中から選ぶものです。

たとえば、地域名と「晴嵐」「晩鐘」「夜雨」「帰帆」「秋月」「落雁」「暮雪」などの気象事象・風景などの組み合わせです。市内には、江戸時代の八景として「平曲松」「小名浜」「大高（窪田）」などが確認されています。

これら、いわき地方の景勝地を八



■写真 「勿来八景」の一つである「小浜夕照」の碑は大震災で流失しましたが、発見されて再建
[平成21(2009)年9月 勿来八景句碑建立実行委員会撮影]

景に選んだのは磐城平藩主だった内藤義概の子・内藤義英でした。若くして露沾の雅号を用い、江戸で俳諧活動の輪を広げ、松尾芭蕉との交友をも深めていました。元禄8(1695)年に高月台の屋敷に移り住み、79歳で没するまでの38年間ここで暮らしました。

露沾は領内の山や川、海浜などを巡ったことが俳諧の内容からもうかがえ、この過程で景勝の地を八景として選出したものでした。

小名浜八景の碑は、浄光院の境内に平成9(1997)年6月に設置されました。当時、いわき市は内藤家を縁に宮崎県延岡市と兄弟都市を締結することにしており、建立の機運が高まっていました。

「大高八景」は「勿来八景句碑建立実行委員会」によって、現代版の「勿来八景」として、同じ内容で平成21年に勿来地区内8か所に句碑が建立されました。

このように「八景」は地域に愛着を持てるよう、まちづくりの一環として活用されたもので、現在の「景観」の考え方と通じるところがあるといえます。

(いわき地域学会 小宅幸一)